

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

# よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.16 2008.12.25



## 福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会  
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10  
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006

## 子育てサロンのクリスマス会



12月9日(火)菊水地区会館で子育てサロン「どんぐりころころ」が開催されました。この日はみんながお待ちかねのクリスマス会です。10月25日にはママたちのブラスバンドがやってきたりして、このところ楽しい企画が続いています。

### クリスマス会では

午前10時に次々にお母さんと子どもたちが2階ホールに集まってきます。外はつめたいかぜがふいていますが、会場は暖かく、クリスマスツリーやいろいろな飾

り付けですっかりクリスマスの雰囲気にあふれています。いつものようにいろいろな玩具が用意されていて、子どもたちは思いおもしろい玩具で遊びだします。お母さんたちはその姿を優しく見守りながらお母さん同士の会話を楽しんでいます。



みんなが揃いだしたころ、主任児童委員の鈴木さんによる「おおきなカブ」の童話や絵本「何を食べたかな」の読み聞かせが始まります。子供たちは「どっこらしょ・よっこいしょ」と掛け声をかけながら、お話に目を輝かせて聞き入っています。



つぎは人形たちによるボードビルです。楽しい音楽に合わせて



て踊る人形たちに大きな拍手が起こります。

最後はお待ちかねのサンタの登場です。南町の山内民生委員さんが大きな袋を背負って登場します。その後に山田民生委員協議会会長がマッカなお鼻のトナカイさんの扮装で続くと、子どもたちから歓声が上がります。サンタと一緒にピンポンパン体操を踊ったり、プレゼントを貰ったりして、親子ともども楽しい一日を過ごしました。



## 子育てサロンとは

よつクロのNo.6今年の1月号に詳しく書きましたので重複を避けませんが、家にももりがちの小学校入学前の子供とそのお母さんに、遊びの場を提供し、お母さんたちの交流を通じて子育て情報を共有することにより、地域の中での健全な保育環境を培っていかうとする取り組みです。「どんぐりころころ」は民生委員協議会が主体的に取り組み、福祉のまちづくりセンターが積極的に支援しています。菊水地区では五つの子育てサロンがあり、開催の状況はインターネットで見ることができます。

## 地域のボランティア紹介

菊水2条3条2丁目町内会の女性部の皆さんによるボランティア活動を紹介します。



会館での作業風景

この町内会女性部では部活動の一環として、昨年より施設利用高齢者の清拭用ウエスを作っています。11月22日の午後6時、西町集会所に女性部有志がいらなくなった木綿のTシャツや手ぬぐいなどを持ち寄り集まりました。それらを一定の四角い形に切り揃える作業が始まります。世間話に花を咲かせながらも手元の鋏はリズムカルな音を立てています。1時間程度で紙袋六つのウエスが出来上がります。



菊水こまちの郷での談笑

12月3日、これをもって高松女性部長と小野・増田副部長の三人が菊水上町の「菊水こまちの郷」を訪れ、佐藤施設長に手渡しました。佐藤施設長は「ご好意有難うございます。早速使わせていただきます。品物と一緒に頂いた地域の皆様たちとの交流の証をこれからも大切に守っていきます。」という感謝の言葉を戴き、施設の見学と制度の勉強をして帰りました。



施設見学



高松部長から佐藤施設長に贈呈

## HP作成中間報告

よつクロNo.11の7月号に掲載しました菊水地区のホームページ作成の進行状況をお知らせします。

住民活動の原点は、地域における生活上の問題を共有することから始まります。今地域でどんな問題があり、それが自分の生活にどんなにかかわりを持っているのかを知ることから、解決すべき



北海道情報専門学校全景



11月19日地区センターでの準備会 右から高濱先生、鈴木君、吉光君

手段の選択と行動の方法を理解することが出来ます。ですから出来るだけ広く、出来るだけ豊富に、出来るだけ早く知らせることが必要です。従来の回覧板方式に加えて、インターネットを利用したホームページの公開を企画してその開設準備



準備委員 右から本田、関口、枝元



11月28日専門学校での準備会

備を始めています。ホームページの立ち上げに際しては、菊水地区の社会資源を活用し共同で行うこと、幅広い年代の参加や人材の活用により行うことのコセプトを大切にしたいと考えています。その一環としてこの度北海道情報専門学校のご協力をいただけることになり、ホームページ作成準備委員会に同校の高濱先生と学生吉光・鈴木両君に参加してもらいました。

このことにより、準備委員会の活動

に加速度がつき、11月19日・28日と検討協議を重ねて、12月18日には最初のたたき台が出来上がる予定です。平成20年度末までの完成に向けて一層の努力を重ねる所存です。ご期待ください。



鈴木君と吉光君

# 災害図上訓練「DIG」

12月15日(月)午後1時半から、菊水地区会館において災害図上訓練「DIG」が行われました。

## 災害図と訓練「DIG」とは

「DIG」とは、ディザスター(災害)イマジネーション(想像)ゲーム(手法)の頭文字を組合わせた造語で、誰でも参加できる防災訓練プログラムです。1995年の阪神・淡路大震災を契機に災害救助ボランティアの手によって創りあげられたものです。



白石区でも地域防災計画の中で採用され、北白石地区では3年前に「DIG」が実施されています。北白石地区は過去に望月寒川の氾濫による水害に見舞われた地区で、住民の防災・防犯意識の強いところ。今年の能登半島地震や岩手・宮城内陸地震、昨年の新潟県・中越沖地震はまだ記憶に新しいものですが、日本各地で地震は発生しています。札幌の下にも活断層があるといわれており、厳冬期に直下型地震が発生したときには、2万人以上の凍死者が出るとも言われています。



安田講師

## 事前になんかことが行われたか

(有)インタラクティブ研究所の安田睦子さんを講師に招き、菊水の5地区からそれぞれ6・7名の参加と、それに民生委員が加わった6チームで「DIG」が行われました。自己紹介の後チームリーダーが選ばれ、最初に次のような災害を想定し、



「その時あなたはどのようにする」という質問に、それぞれのチームが答えました。この場面で「DIG」の特色が発揮されたのです。それぞれの参加者が自分の行動をメモ用紙3枚に書き、後で大きな模造紙の四つに仕切られた部分に貼り付けていきます。

### 12月15日午後7時、震度6の直下型地震発生 そのときあなたはどのようにする

- ① 大きな揺れの直後していること
- ② 1時間後にしていること
- ③ 自主避難のとき家でしていること
- ④ 避難所に持っていくもの

注 読者のあなたも考えてみてください。

**情報の共有** 貼り付けられたメモのなかで同じ答えのカードをまとめると、そのチームの共通の問題点が浮き彫りになります。①については、電気・ガス、火の確認。家族の安否確認。倒壊家屋からの脱出。②では、自宅の被害状況確認。ブレーカーを切る。隣近所の確認。③戸締り。貴重品・食料の携帯。水の確保。④衣類の持ち出し。携帯電話・ラジオ・常備薬、それにペットなどの答えがありました。民生委員さんのチームでは、独居老人や障害者の名簿を携行するという答えがあり、さすが民生委員と賞賛されていました。



一人ひとりがメモを書く



メモをまとめて貼る



立ち上がって作業をし話し合う

### 地図よでの災害時避難予想訓練

各グループのテーブルに、透明のシートが重ねられているA0版の地図が用意され、各参加者が相談しながらいろいろな印を書き込んでいきます。①各自の自宅(ピンク)②避難場所である学校・公園(緑)③老人(茶)④障害者(紫)⑤妊産婦⑥病院・食料品店・防災器具保管場所(青)⑦道路や危険な場所・火災現場や



地図に情報を書き込む

落下した橋・渋滞道路、その他被災状況(黒)などと書き込んでいきます。最後に自宅から避難場所までの経路を地図に書き込みます。

### 全体での話し合い

以上のような作業を通じて災害時における対応の情報が全体に共有されます。その結果、自分はどういう行動をとればいいのか、住民として何をなすべきか、また、この地域に何が必要なのかについて話し合いが行われました。反省点として、災害時要援護者(老人・障害者・妊産婦など)の居場所がわからないことが明らかになり、なお一層の福まち活動の推進が必要であるとの認識に達しました。



訓練には全員が参加する



消防、水道、警察、区役所からのアドバイザーが参加

**「DIG」の評価** 今まで多く行われている講師の話や座ったままで聴くという研修とは違い、参加した者一人ひとりが積極的に作業や話し合いに参加しなければならないこの手法は、これからの研修方法として大いに参考になりました。

**編集後記** 毎月発行してきた福まち通信「よつクロ」も今月号で師走を迎えました。毎月、よくもこんなに伝えることがあるものだと思心しながら編集に当たってきました。地域にある各種の福祉情報を、より早く、より豊富に皆さんに知らせることが使命であると認識し、来年も頑張る所存です。良い年をお迎えください。(枝元)